

第9回『中国人養父母感謝の集い』2023

今年も4月5日（水）、中国の清明節の日・午前10時より、そぼ降る春雨の中、鹿児島県・鹿児島市日中友好協会・遣華孤児鹿児島会では天保山公園に2014年に建立した『中国人養父母感謝の碑』を参拝しました。今年は9時過ぎから、昨年新しく発足した鹿児島県日中友好協会女性委員会の皆さんが中国の習慣に倣って碑の周りの清掃をされました。

今年は第1回目以来になります中国の駐福岡総領事館の律桂軍総領事も出席して、花を手向けました。献花の後、海江田順三郎県日中友好協会会長の挨拶に続き、律桂軍総領事の挨拶がありました。

それでは、海江田会長の挨拶の一部を紹介させていただきます。

大家好！皆さまお早うございます

本日は清明祭に当たり例年の通り、ここ天保山公園の中国残留邦人養父母感謝の碑の前にお集まりいただき心より厚く御礼申し上げます。

今年は特に中国駐福岡総領事館よりご多忙にも拘らず、律桂軍総領事ご一行ご3名がご来会賜りましたことを衷心より有難く感謝申し上げます。

御承知の通り先の第二次大戦の末期に主に中国東北地区（旧満州）に起きまして・ソ連軍の不法侵入する大混乱の逃避行中に家族と離れ離れになった日本人の多数の孤児が発生しました。

これら孤児たちの悲惨な状況を見かねた中国人は孤児たちをそれぞれの家に引き取り、養子として我が子同様に養育され、年老いて子供たちより介護を受ける時期に子供等を快く日本に帰国させていただきました。私たち日本人はこのような中国人養父母の大恩を決して忘れてはならないと思います。

日本のテレビ局が残留孤児の養い親に

「あなた方はなぜ日本人の子供を引き取って育てたのですか？」と問うた所

「困っている人がいれば助けるのが当たり前のことだ、それと日本人と中国人は大昔から親戚同士だから・・・」と答えが返って来ました。

私は弟子の子貢から「人生で一番大事な文字は何ですか？」と問われた孔子が、それは恕（思いやりの心）だと答えた論語の一節を思い出しました。

日本でも「恩は石に刻め、仇は水に流せ」と言い伝えられてきました。

さすれば中国古来の恕（ジョ）の精神と日本人の恩義に報いる至情の象徴がこの『中国人養父母感謝の碑』ではないかと存じます。

翻って現今の日中関係は3年来のコロナ禍と国際関係の変化で相互の交流が阻害されて来ましたが、最近やっとコロナ禍も峠を越した感じが致します。

昨年は日中国交回復50周年に当たりましたので、ことしは「ポストコロナ、ポスト50周年のスタートラインとして、日中関係の改善と親善友好の促進に努力し、残留孤児養父母の遺徳、恩義に伝えていかねばならないと考えます。

日中友好協会へのご教導、ご協力をお願い申し上げてご挨拶といたします。本日は誠にありがとうございました。

鹿児島県日中友好協会 会長 海江田順三郎